

令和5年度 富山市ガラス美術館協議会 協議要旨

日 時：令和5年7月13日（木）13：30～14：45

場 所：ガラス美術館3階セミナールーム

出席者：協議会委員（敬称略）4名

島敦彦（副会長）、大久保秀俊、滝みゆき、外館和子

ガラス美術館 10名

伊東名誉館長、土田館長、水原次長、牧野館長代理、藤井係長、

田村主任、宝田主事、浅田主任学芸員、古澤主任学芸員、米田学芸員

欠席者：協議会委員（敬称略）5名

秋元雄史、石崎由則、石田敬真、國香真紀子、宮廻正明

資料1 富山市ガラス美術館協議会概要等

1-1 富山市ガラス美術館協議会の概要について

1-2 富山市「ガラスの街づくり」の主な取組みについて

1-3 富山市ガラス美術館企画展について

1-4 富山市ガラス美術館基本方針

資料2 令和4年度富山市ガラス美術館事業実績等……………議事（1）

2-1 令和4年度富山市ガラス美術館の当初予算額及び決算額について

2-2 令和4年度富山市ガラス美術館の主要事業について

2-3 令和4年度TOYAMAキラリ入館者数及び富山市ガラス美術館
観覧者数について

2-4 令和4年度富山市ガラス美術館5階ギャラリー使用実績について

2-5 令和4年度公益施設内関連イベント実施状況について

2-6 来館者アンケート集計結果

2-7 2階カフェの公募について

資料3 令和5年度富山市ガラス美術館事業計画等……………議事（2）

3-1 令和5年度富山市ガラス美術館事業一覧について

3-2 令和5年度富山市ガラス美術館展覧会開催スケジュールについて

参考資料

1 ミュージアムショップ（2階）のオリジナル商品について

2 カフェ（2階）メニューについて

（協議要旨）

1. 開会（司会進行：藤井係長）

2. 名誉館長挨拶

3. 館長挨拶

4. 出席者紹介

5. 挨拶及び議事（司会進行：島副会長）

（1）令和4年度富山市ガラス美術館事業報告について（水原次長から説明）

（2）令和5年度富山市ガラス美術館事業計画について（水原次長から説明）

6. 意見及び質疑応答

(委員) 学校関係者の立場から見ると、小学4年生は教育普及プログラムのため美術館と図書館へ来館の機会があるが、中学生は足が遠のいていると感じる。中学生は高校進学で、美術専攻を選択する生徒も少なくない。例えば、富山第一高校や北部高校は美術専攻の推薦もあるので、できれば中学校の美術部やガラス工芸に興味のある生徒への割引や招待等があれば良いと思う。14歳の挑戦については、昨今コロナ禍が終息しつつあるとはいえ、事業所自身が人員削減をしており、受け入れが厳しい状況である。生徒への対応が難しいとは承知しているが、今後14歳の挑戦への協力をお願いしたい。

(委員) 大谷美術学園に勤務しており、そこでは幼稚園児から大学生までの学生を支援している。ガラス美術館へ足をのばす学生や保護者がいる一方、美術館でどんな展覧会を開催しているのか知らない者も多くいる。近くに寄ったから、図書館利用の機会に、有名なムーミン展を見るため等、来館理由は様々だが、来館のきっかけとなるために美術館から積極的に発信をした方が良いと考える。例えば、テレビやるるぶ等の雑誌による発信だけでなく、より発信力のあるSNSに力を注ぐべきである。10、20代はテレビや雑誌をあまり見ず、iPadやスマホで情報収集をしている。ガラス美術館は10、20代の来館者が多いため、もったいないと感じる。SNSで発信すれば、もっと来館者が増えると思う。コロナ禍が終息しつつあり、心に潤いを求めて美術館を訪れる人や海外からの来館者が増える時期であるので、もっとSNSによる発信を行えば、良い作品を大勢の人が見に来てくれると思う。

また、ムーミングッズのポップアップショップ等は人気があるので、美術館でも取り入れていけば、子供から大人まで幅広い世代の来館につながると思う。

(委員) アメリカのミシガン大学美術館やボストン美術館、トレド美術館を訪れた際は、輸送費が高騰し、展覧会の会期を3ヶ月から半年以上に延ばすのが通常になりつつあるほど、巡回が難しいという状況だった。開催する期間が延びれば光熱水費は増えるが、それ以上に輸送費が高騰しているため、展覧会の本数を増やすのが難しかった。そのような状況の中、ガラス美術館では令和4年度展覧会開催事業費の予算で、約1億4千万円を確保しており、海外展を含め展覧会を積極的に開催しているのは素晴らしいと思う。

アナザーワールド展のアーティストトークに出演された今井瑠衣子氏、津守秀憲氏も卒業生である多摩美術大学では、工芸学科の1年生がガラスもしくは金属工芸、陶芸のいずれを専攻するか選択する時期であるが、ガラスが一番人気である。ガラス美術館について授業で紹介しているため、学生の間でもガラスが浸透しつつあり、また日本にガラスの専門館があることが可能性を感じさせている。卒業生がガラス美術館で作品を展示し、展覧会の関連イベントに出演する機会があるのも、学生に希望

を与える。デジタルやバーチャルの時代において、手のかかる素材を直接扱うような世界は、美術大学の中でも問われている中で、ガラス美術館が与える影響は大きい。

(委員) 委員Aが指摘した中高生の美術館への来館が少ないことは、どこの美術館でも課題である。少人数でも良いので、美術に関わる人を取り込んでいく必要がある。

委員Bが指摘した広報については、ガラス美術館は予算が比較的潤沢で、色々な雑誌に広告を出しているのではある程度はそれが機能していると思う。しかし、来館者アンケートによると、SNSを見て来館する人が2番目に多く、やはり口コミはかなり重要であるため、テレビや雑誌を見ない世代にどう浸透させていくかは美術館の課題である。

委員Cが指摘した予算の問題について、自身が所属する国立国際美術館の展覧会開催事業費は多くて7千万円程であり、独立行政法人本部からの予算や作品の購入経費をやりくりしている状況である一方、ガラス美術館は海外展を開催する予算や環境が整っているのは素晴らしいと思う。調査研究事業費の旅費は、もう少し将来的に積み増した方が良いと思う。将来の展覧会を考えるため、学芸員の知識の蓄積を図るには恒常的なリサーチが重要である。宮永愛子展の作家、宮永氏はガラスも扱うが、ガラス以外の制作が中心の作家であり、このような展覧会の企画にあたってはガラス以外の分野の研究も必要である。自身が富山県立近代美術館に所属していた時は、旅費がなく、自費の夜行列車で東京に行っていた。特に富山は関東・関西圏のいずれからも遠く、場所的に不利なので、学芸員が普段から知識を蓄積できるような体制を整えてほしい。

なお、ストリートミュージアムが劣化のため、撤去しているとのことだが、最終的には全部撤去するのか。

(ガラス美術館) 屋外ショーケースは、令和4年度に4基撤去したので、残り8基ある。平成16年頃に設置したものもあり、かなりの年数が経っていることから、基本的には屋外ショーケースは全て撤去する予定であるが、今後のストリートミュージアムについてどのように展開していくかは、美術館だけではなく、ガラスの街づくりの観点から本庁の担当課（文化国際課）とも検討していく。

(委員) 展示替えはしていたか。

(ガラス美術館) 定期的に展示替えはしていた。

(委員) 駅前のショーケースは目立つので、ガラスの街だと伝わるのが良い点だが、ガラスが割られる恐れがある等、防犯面では難しい点もある。

展覧会の入場者数が多いという印象を受けた。新幹線の効果や旅行者数の増加によるものだと思う。来館者アンケートによると、関東圏が多いようだが、来年の春に敦賀まで新幹線が延びるので、関西圏からの増加も期待できる。あとは地元富山をもっと取り込んでいくと良い。一方、展示室の面積はそれ程広くないので、余りにも混雑すると作品への接触頻度の増加や、感染症の蔓延により鑑賞環境が悪くなる場合もあるので

注意が必要である。

アナザーワールド展の入場者数が3万7千人以上というのは驚異的な数字だと思う。自主企画で入場者数2万人を超えるのは大変だが、どの展覧会も2万人を超えているのは素晴らしい。

1月2日、3日の特別開館だが、これは今後行う予定か。神社の近くにある美術館であれば初詣客の来館が見込めるため、開館もやむを得ないかもしれないが、職員の負担を考えると、サービスとの加減が難しい。来館者アンケートのキャプションの文字を大きくしてほしいという意見は、どこの美術館も悩みの種である。文字を大きくすると、さらに大きくしてほしいという要望が必ず出るので、ある程度のところで止めざるを得ない。また、文字が大きいと文字にばかり目が行ってしまい、作品をじっくり見ることができなくなる。最近はキャプションを一切なくし、別紙を配布して見てもらう方法を取る美術館もあるが、作品と突き合わせる手間があるので、やはり作品の近くにキャプションがあった方がよいと思う。

(委員) 街中にブロンズ彫刻が展示されているのはよく見かけるが、ガラス作品が展示されているのが珍しく感動した。ケースのメンテナンスや作品の展示替えは負担が大きいと思うが、ガラスの街というイメージを担っていると思うので、できれば残してほしい。

来館者アンケートで、看視員が多いという意見が44件もある。ベテランの看視員はお客様の気配を感じ取り、視線から外れる場所に移動することで、圧迫感を感じさせないようにする。そのようなテクニックを看視員同士で共有したら良い。

(委員) 国際美術館でも看視員について、お客様から指摘されることがある。お客様が少ない時は看視員が多く感じて緊張し、自由に鑑賞しづらいことはあると思う。額装された作品が多い場合は、看視員を減らしても良いと思うが、ある程度予算を確保しておかないと、本当に看視員が必要な時に予算が不足するかもしれない。

(ガラス美術館) 看視員が解説するあるいは質問すれば返ってくるような仕組みにするとより良い。

(委員) 美術館によっては、ボランティアスタッフが簡単な説明をしながら付き添うという試みがあり、主にコレクション展で行うことが多い。

(委員) 写真が撮れる展覧会では、白線を越えて写真を撮ろうとしてしまうことが自分自身あるため、ある程度看視員の人数は必要であると思った。ミュージアムショップに寄った際に地元作家の作品を熱心に見ているお客様を度々見かけ、高額なもの以外にも商品を充実させて、ショップやカフェを目的に来館してもらえようPRしてほしいと改めて思った。

(委員) 来館者アンケートによると富山市民で来館したことのある人が11%というのはかなり低い数字だと思う。委員Dの母校でもある堀川中学校は1000人を超える学校であり、美術館について学校で宣伝するので、中学生にぜひ良い展示を見せてもらえればと思う。

(委員) 国際美術館では最初、料理の鉄人という番組にも出演していた、「クイーン・アリス」というレストランをプロデュースする石鍋シェフがレストランを営業していたが、数年後に撤退し、次に地元の他業種展開している店舗が入ったものの、また撤退し、3社目も短期間で撤退したため、現在、レストランは閉業している。美術館でのレストラン経営に苦慮する理由としては、コロナ禍ということもあったが、その他、営業時間の制約や休館日及び展示替えの期間の営業ができないこと等がある。美術館としては、家賃収入は欲しいが、通常通りの賃料を提示すると、事業者の撤退につながる。また、最近は事業者自身が店舗のデザインを検討・変更するケースが多く、改修工事の費用を最初に負担してもらい、また撤退時にも原状回復する必要があることから、新たな業者が入りにくく、切れ目のないレストランの経営困難である。美術館が、賃料の減免措置等何らかの支援を検討することで、少しは継続性が担保できると思う。

7. 閉会

(以上)